

大澤賢悟です。2月から子供との登山とは別にソロ登山を始めています。何回か登ってみた結果、ソロだとかなりハードな山歩きができるため、楽しみ方がまったく違うことに気が付きました。この考え方は商売にも活用できそうです。例えば、同じ商品・サービスでも、売り方やターゲット等を変えると違うニーズが出てきます。売り方を変えて新しいニーズを模索すれば思わぬビジネスにつながりそうです。



### 未来への投資

商売を進めるうえで未来に向けての投資を意識していますか？未来への投資は、商売を続けるためには欠かせません。市場は急激に変化し、さまざまな新しい技術が入ってきます。そのため、現在の仕事をそのまま続けるだけでは、気づいたときには世間から取り残されています。そうならないためには、未来を考え計画し、そのために意図的に投資を行うことが重要です。新しい技術への投資は、業務の効率化と競争力の向上につながります。市場に柔軟に変化するための投資を行うと、絶えず変化するお客様のニーズにこたえていくこととなります。そうすることで付加価値が高まり、自社のブランディングにもつながっていきます。経営者は現状維持に落ち着かず、常に未来に向けた意思を持ちたいものです。

### 「RPA」と「AI」と「プログラム」の使い分け

今後の業務効率化にはIT技術が欠かせません。そのためRPAとAIとプログラムの使い分けが重要です。最も効率が良いのはプログラムです。100%確実で高速に処理してくれます。ただし、既存のシステム間での連携ができないなど、汎用性が低いデメリットもあります。RPAはマウス・キーボードの操作も可能なため、既存の専用システムから別の環境へのデータ移動・取り出しなどで有効です。しかし、環境の変化に弱く、操作手順の変更には実作業の10倍以上の時間がかかります。AIは柔軟性が高くさまざまな状況に対応可能だと考えられています。しかし、内部プログラムがブラックボックスになっており、思ったような動作をするとは限りません。それぞれの特徴を理解するとより効果的な利用につながります。

### NFTのポテンシャル

NFTはデジタルアートとの連携がわかりやすく、デジタルで絵を売るための物と誤解されがちです。しかし、NFTの持つ機能はそれだけではありません。NFTはデジタルであることを活かし、その先のプログラムと連動させることも可能です。会員権のような機能が付与でき、NFTを持っていることで特定のコミュニティに所属できたり、入退出の電子キーにすることもできます。位置情報と組み合わせる、カメラを活用する等、スマートフォンの持つ機能との連携も可能です。まだまだ一般人には使いにくい点も多々ありますが、アイデア次第で新しいサービスの提供につながられます。ぜひ、ビジネスに活用ください。

